

戦略1 攻めの「やまなし」成長戦略

【戦略のねらい】

県内の良質な雇用の拡大により、県民の所得向上を実現し、豊かさにつなげていくためには、時代に対応した産業の振興や、本県の優れた地域資源の活用などにより、県外、さらには国外から外貨を獲得し、それが県内経済を潤していく好循環を作っていく必要があります。

また、明治期の中央本線、昭和期の中央自動車道のように、本県は、県外との新たな交通手段が確立したことを契機に、大きく発展しており、リニア中央新幹線の開業により東京や名古屋との時間距離が大幅に短縮されること、中部横断自動車道の開通により、太平洋と日本海を結ぶルートの中継点になるという機会を最大限に活用する必要があります。

このため、やまなしを牽引する産業の育成（政策1）、観光産業の振興（政策2）、農業の成長産業化（政策3）、林業の成長産業化（政策4）、地場産業や経済を循環させる産業の強化（政策5）といった5つの政策により、本県経済の活性化を図ります。

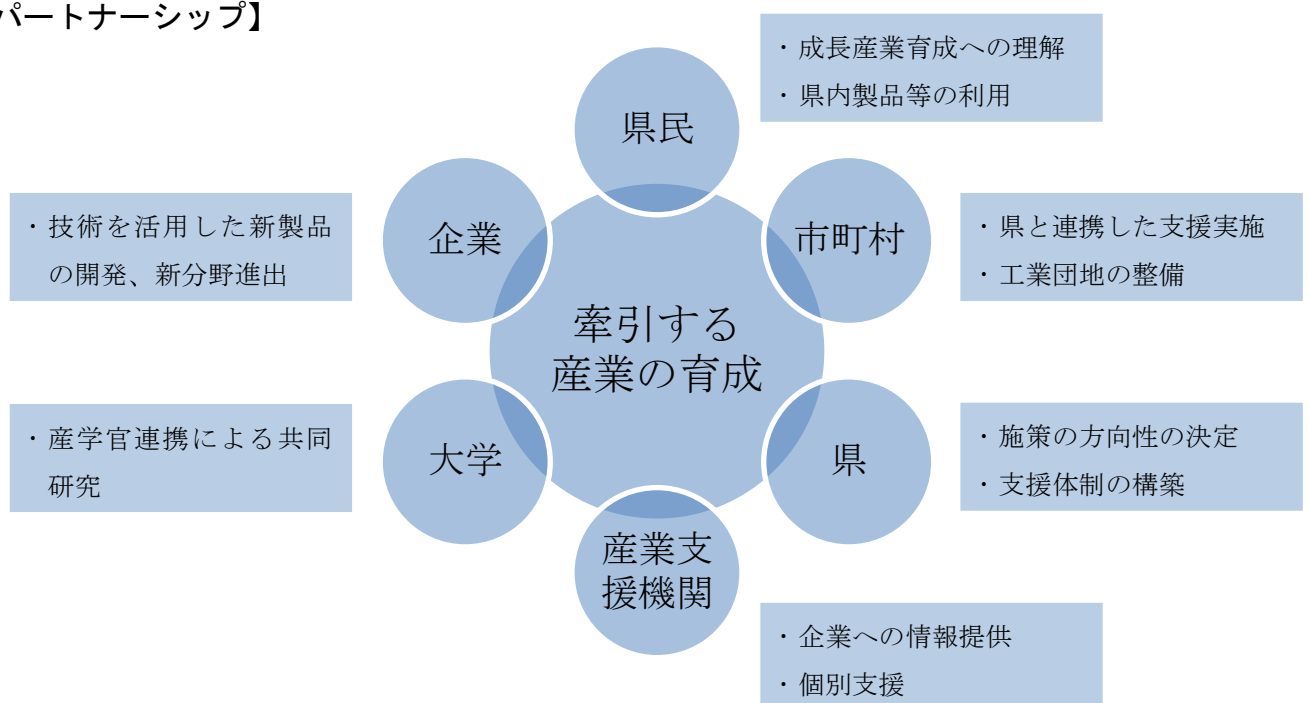
政策1 やまなしを牽引する産業の育成

【政策の基本的な考え方】

世界的に進んでいる第4次産業革命は、これまでのものづくりの方法を大きく変え、産業構造やさらには社会構造を変革していくとされています。そのため、本県の基幹産業である機械電子産業の優れた技術の蓄積を生かしながら、新たな技術等を取り入れ、今後も成長が期待されている医療や健康に関連した産業や、次世代のエネルギーに関連した産業などの育成を図ります。

また、成長が見込まれるアジア諸国や日本における成長の中心である東京と、中部横断自動車道やリニア中央新幹線により、大幅に時間距離が短縮し、物流環境をはじめ、ヒトやモノが迅速に移動可能となる環境が整備されるメリット、観光資源としての富士山の優位性などを最大限活用して民間資本の誘致などを進めるとともに、オリンピック・パラリンピックの開催を起爆剤とした県内産業の活性化などにより、次代を担う産業の育成を図ります。

【パートナーシップ】



【期待される政策効果】

本県産業の特長や東京に近接しているというメリットなどを生かした成長産業の育成、集積が進み、県内経済の活性化と新たな雇用の場の確保が実現しています。

1 医療機器関連産業の集積

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <現在> 甲府市を中心に医療機器関連企業が立地するとともに、機械電子産業の医療機器関連分野への参入に向けた取り組みが進められている。 H30 医療機器等の開発に関連する企業数 61社 | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <将来> 医療機器関連産業の集積を目指す、メディカル・デバイス・コリドー構想が実現している。 R4 医療機器等の開発に関連する企業数 100社 |
| (施策の概要) | |
| 成長産業として期待される医療機器関連産業の集積を促進するため、県内医療機関等と連携し、中小企業等の医療機器関連分野への進出を支援します。 | |

(新事業・経営革新支援課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|--|--|--|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ メディカル・デバイス・コリドー構想に係る計画策定 ○ 計画に基づく中小企業等の医療機器関連分野への参入促進 | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 策定 | | | |
| | | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 支援 | | |

※ メディカル・デバイス・コリドー

中央道～東富士五湖道路に中部横断自動車を加えた沿線地域をコリドー（本県全域を巡る回廊）と捉える。

2 水素・燃料電池関連産業の集積

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>山梨大学などの研究開発の優位性を生かし、中小企業等の水素・燃料電池関連分野への参入が進められている。</p> <p>H30 水素・燃料電池関連分野への参入企業 50社</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>山梨大学などの研究開発の優位性を生かし、水素・燃料電池関連産業が本県の成長産業として集積されている。</p> <p>R4 水素・燃料電池関連分野への参入企業 70社</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>成長産業として期待される水素・燃料電池関連産業の集積を促進するため、山梨大学などと連携して中小企業等の水素・燃料電池関連分野への進出を支援するとともに、水素・燃料電池関連産業の先端的な評価・研究を推進します。</p> | |

(新事業・経営革新支援課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 中小企業等の水素・燃料電池関連分野への参入促進 | ➔ | | | |
| ○ 水素・燃料電池関連産業の先端的な評価・研究の推進 | ➔ | | | |


3 企業立地の促進

| | |
|---|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>大手化粧品メーカーや木材加工メーカーなど、本県への立地が進んでいるが、県内経済の活性化のため、市町村等と連携し、更なる企業立地を促進している。</p> <p>H30 地域未来投資促進法(ものづくり)に基づく事業者の立地計画の承認件数</p> <p style="text-align: right;">33件 (H29-30 累計)</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>製造業に加えて、物流業やサービス業など、幅広い産業について、本社機能の移転を含めたトータルな企業立地が進み、雇用の確保及び県内経済の活性化が図られている。</p> <p>R4 地域未来投資促進法(ものづくり、物流等)に基づく事業者の立地計画の承認件数</p> <p style="text-align: right;">39件 (R1-4 累計)</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>雇用の確保や県内経済の活性化を図るため、工業団地の整備を行う市町村等を支援するとともに、地域未来投資促進法に基づく物流等に関する基本計画の策定や、各種の支援制度並びに法令等に基づく税制優遇等により、本県への企業立地や事業の拡大を促進します。</p> | |




(企業立地・支援課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 市町村等の工業団地整備への支援 | ➔ | | | |
| ○ 地域未来投資促進法に基づく物流等に関する基本計画の策定 | ➔ | | | |
| ○ 事業者の立地計画策定への支援 | ➔ | | | |
| ○ 立地企業に対する資金面の支援 | ➔ | ➔ | | |
| ○ 法令に基づく税制優遇等による立地企業に対する支援 | ➔ | | | |

4 リニア中央新幹線の開業に向けた取り組みの推進

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>リニア開業は、県民の生活に豊かさをもたらす今後またとない好機であることから、この最大のチャンスを実現するための方針策定に向けた検討を進めている。</p> |  |
| <p><将来></p> <p>民間資本等の誘致や駅周辺整備などにより、県内経済の活性化、豊かな県民生活が実現している。</p> <p>R4 民間資本等の誘致の具体化や駅周辺整備が進められている。</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>リニア開業を契機に県内経済の活性化を図るため、民間資本の誘致などについて、様々な視点から実現可能性や具体的な手順を検討し、その方針を示すとともに中間駅周辺の整備内容を示したビジョンを策定、推進します。</p> <p>また、建設工事を予定どおり進めるため、計画的に用地取得を進めます。</p> | |

(リニア推進課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|---------------------------|--|---|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ リニアやまなしビジョン (仮称) の策定・推進 |  策定 |  推進 | | |
| ○ リニア中央新幹線の用地取得 |  実施 | | | |


5 起業（創業）支援の充実・強化

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>経営に関する知識や経験が相当程度ある者が起業している。</p> <p>H30 県支援による起業 63件/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>幅広い層で起業の機運が高まり、次々と起業家が誕生し、大きく成長していく環境が創出されている。</p> <p>R4 県支援による起業 80件/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>県内における起業を促進するため、機運の醸成やノウハウの提供、資金面の支援を行うとともに、産学官金連携による支援体制を強化します。</p> | |




(新事業・経営革新支援課
商業振興金融課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 起業に向けた機運の醸成 | ➔ | | | |
| ○ 起業のためのノウハウの提供や専門家による伴走支援 | ➔ | | | |
| ○ 起業に対する資金面の支援 | ➔ | | | |
| ○ 産学官金連携による支援体制の強化 | ➔ | | | |

6 東京オリンピック・パラリンピックへの対応

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>令和2年6月27日・28日の聖火リレー、同年7月25日・26日の自転車競技ロードレースの開催に向けて準備を進めている。</p> |  |
| <p><将来></p> <p>聖火リレーやロードレースの開催を通じ、県民の郷土に対する誇りや愛着心が醸成されるとともに、本県の魅力が発信されることにより、国内外に多くの山梨ファンが生まれている。</p> <p>R2 聖火リレーや自転車競技ロードレースが円滑に実施された。</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>自転車競技ロードレースの開催や事前合宿の円滑な実施に向けた準備を着実に進め、大会開催を契機に本県の魅力を世界へ発信し、地域の活性化につなげていきます。</p> | |

(オリンピック・パラリンピック推進課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|--------------------|---|--|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 自転車競技ロードレースの開催支援 |  | | | |
| ○ 聖火リレーの実施 |  準備 |  実施 | | |

7 スポーツによる地域振興（東京オリンピック・パラリンピックのレガシー活用）

| | |
|---|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>令和2年7月25日・26日の自転車競技ロードレースの開催や事前合宿（R1年6月末現在：10市町村11競技）の受け入れに向けて、県及び関係市町村において準備を進めている。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>継続的なスポーツ合宿やイベントの開催により、地域に賑わいがもたらされており、関連ビジネスが集積・拡大している。</p> <p>R4 スポーツによる地域振興のための取り組みが行われている。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を、やまなし変革の起爆剤とし、その後の持続的な発展につなげるため、大会及び事前合宿、関連イベントの円滑な実施に取り組み、大会会場地及び合宿地としての本県の認知度やステイタスの向上を確かなものとするとともに、スポーツが成長産業として地域経済を活性化し、地域振興に結びつくような取り組みについて検討を進めます。</p> | |

オリンピック・パラリンピック推進課
（市町村課／スポーツ健康課／政策企画課）

| 具体的な事業 | 工程表（年度別事業計画） | | | |
|--|--------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ ホストタウンに登録した市町村等が行う環境整備や事前合宿、機運醸成等の支援 | ➔ | | | |
| ○ 日本代表強化合宿の誘致 | ➔ | | | |
| ○ スポーツ施設やイベント等を活用した地域振興の検討 | ➔ | | | |

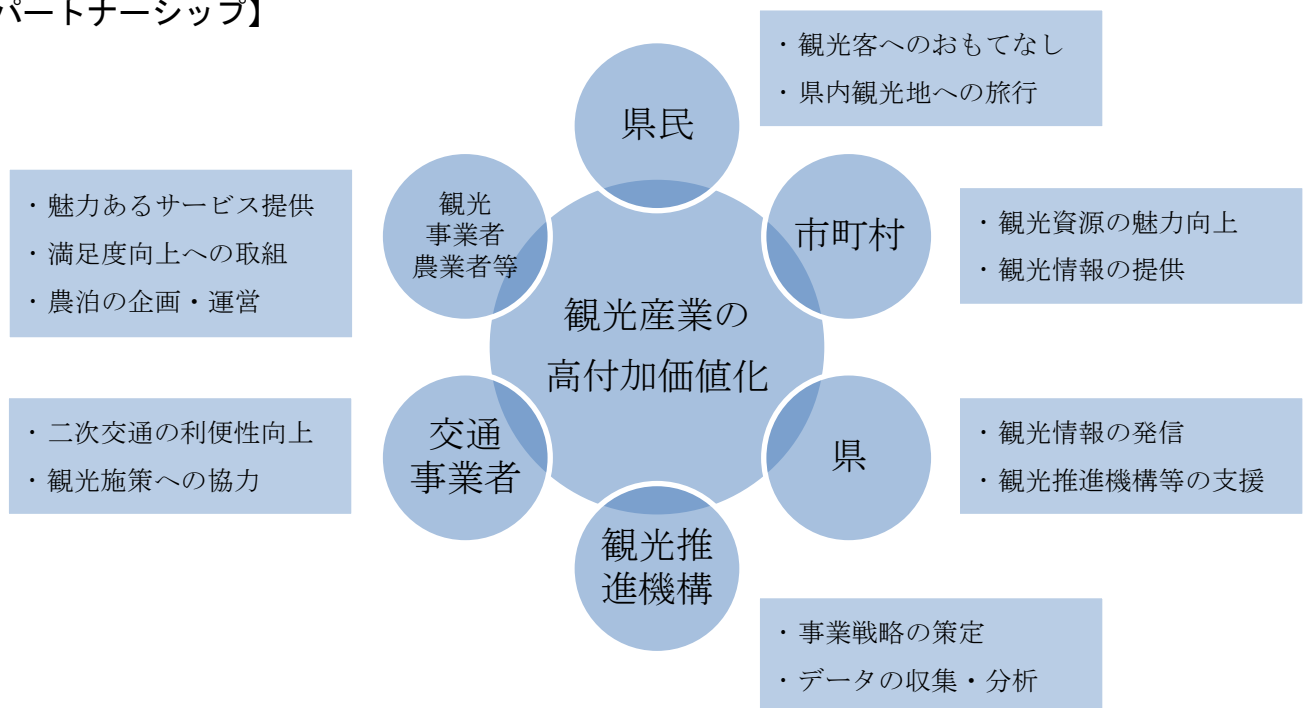
政策2 観光産業の振興

【政策の基本的な考え方】

本県には、世界遺産である富士山をはじめ、峡東地域の葡萄畑の風景など2つの日本遺産や、身延山等の歴史的な文化資産や歴史的建造物、地元特産の食材や料理、県内各地にある温泉といった観光資源が豊富にあり、観光客数は外国人旅行者を中心として増加傾向にあります。しかしながら、観光消費額が伸び悩んでおり、観光産業の更なる高付加価値化に努める必要があります。

そのため、観光産業の「稼ぐ力」「働く魅力」の向上に取り組むとともに、山梨の強みを生かした地域資源の磨き上げや、コト消費・トキ消費²⁷に対応した観光推進、さらには今後も増加が期待されるアジアを中心としたインバウンド観光への対応などに取り組んでいきます。

【パートナーシップ】




【期待される政策効果】

県内の観光資源の魅力が高まることで、観光消費額が増加し、観光産業の収益性が向上しています。






²⁷ 単に名所旧跡を見たり、特産品を買うだけでなく、その土地ならではの伝統や習慣、食文化に触れたり、人々との交流を通じて、新しい発見や体験を求めることを重視した旅行のスタイル

1 受入環境の整備


| | | |
|---|---|---|
| (施策の目指す姿) | | |
| <p><現在></p> <p>本県を訪れる観光客数は増えているものの満足度は低く消費額は低迷している。</p> <p>また、観光客をお迎えする県民の地域への愛着度も全国最低レベルにある。</p> <p>H30 観光客満足度 41%</p> |  | <p><将来></p> <p>県民のホスピタリティ、事業者のサービスレベル、県内各地の観光スポットの整備状況など、いずれも全国最高水準となり、観光客の満足度も上がっている。</p> <p>R4 観光客満足度 50%</p> |
| (施策の概要) | | |
| <p>地域全体で温かく観光客を迎えるため、住民の郷土教育やおもてなしに主体的に取り組む人材の育成、美しい景観づくり、市町村等が行う観光施設整備への支援の実施、ユニバーサルデザイン化の推進、インバウンド観光客に対応した通訳案内士による観光ガイドや新たな体験メニュー開発などを進めます。</p> | | |

観光企画課／観光資源課






(国際観光交流課／県有林課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ おもてなし推進週間の実施 |  | | | |
| | 実施 | | | |
| ○ 観光施設等の整備に対する支援 |  | | | |
| | 実施 | | | |
| ○ 地域通訳案内士の活用の促進 |  | | | |
| | 支援 | | | |
| ○ 観光事業者のハラル対応への支援 |  | | | |
| | 支援 | | | |
| ○ 眺望伐採等の森林整備・眺望スポットのPR |  | | | |
| | 実施 | | | |


2 地域資源の活用

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>本県への観光客は、自然や温泉を目的にしている人が多く、食や土産物などを目的としている人が少ない。</p> <p>また、民間シンクタンクが行った旅行満足度の調査でも、地元ならではのおいしい食べ物に満足を感じた人の割合が全国 39 位と低迷している。</p> <p>H30 ・観光客一人あたり平均消費額 10,616 円 ・延べ宿泊者数 861 万人</p> |  |
| <p><将来></p> <p>本県の魅力的な地域資源を活用した着地型観光や夜の魅力を楽しむナイトタイムエコノミー、富裕層を対象としたラグジュアリーツアー、山梨ならではの新たな食の提供など、本県の地域資源を余すところなく活用した観光メニューが提供されている。</p> <p>R4 ・観光客一人あたり平均消費額 12,000 円 ・延べ宿泊者数 970 万人</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>コト消費型・トキ消費型といった観光ニーズの多様化や旅行形態の変化に対応するため、魅力ある地域資源の磨き上げとともに、富裕層を含め、旅行者のニーズに適した体験型プログラムを組み込む着地型観光などの推進に取り組みます。</p> | |

観光企画課／観光プロモーション課
 (観光資源課／国際観光交流課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|--|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 峡東地域ワインリゾート推進協議会による構想に基づく事業 |  | | | |
| ○ 日本遺産(葡萄畑が織りなす風景)の事業を活用したプロモーションの実施 |  | | | |
| ○ 富士川地域歴史・文化ツーリズム推進会議による構想(R1年度まで)に基づく事業 |  | | | |
| ○ 峡南歴史・文化ツーリズム構想等の検証及 R2 年度以降のあり方の検討・支援 |  | | | |
| ○ 地域資源を活用した体験メニュー等の開発支援 |  | | | |

3 魅力が伝わる情報発信

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>旅行ニーズの多様化やスマートフォンの急速な普及を背景に、インターネットを中心に様々な方法による観光情報の取得が行われているが、情報発信のデジタル化やオウンドメディアの活用が十分ではない。</p> <p>H30 富士の国やまなし観光ネットアクセス数 944 万 PV</p> |  |
| <p><将来></p> <p>通信機器、通信環境の革新、SNSの普及など情報の受発信を取り巻く環境の変化に的確に対応し、旅前（たびまえ）、旅中（たびなか）など観光客の多様なニーズに応じ、必要な情報が容易に取得できるようになっている。</p> <p>R4 富士の国やまなし観光ネットアクセス数 1,200 万 PV</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>本県観光の魅力が国内外の観光客に正確に伝わるよう、情報発信技術の活用や、オンライントラベルエージェントとの連携強化による効果的な情報発信に取り組むとともに、市場特性に応じた国際観光プロモーションや多様な国際交流の推進に取り組みます。</p> | |

観光プロモーション課

(国際観光交流課)

| 具体的な事業 | 工程表（年度別事業計画） | | | |
|---|--------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 「富士の国やまなし観光ネット」による情報発信 | 実施 | | | |
| ○ 外国人誘客促進アプリシステム「FUJISAN ACTIVITIES」の運用管理 | 実施 | | | |
| ○ オンライントラベルエージェントと連携した海外への情報発信 | 実施 | | | |
| ○ 友好関係を構築した国・地域を対象としたプロモーション | 実施 | | | |
| ○ 日本政府観光局と連携した旅前の情報発信 | 実施 | | | |
| ○ 海外からの研修員の受入による国際交流の推進 | 実施 | | | |

4 観光産業の生産性向上等の推進

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>インバウンド需要の取り込みなどで県内の観光客数は増加しているが、観光消費額は伸び悩んでいる。</p> <p>また、宿泊・飲食業従事者一人あたりの付加価値額は全国9位と比較的上位に位置しているが、まだまだ伸びしろがある。</p> <p>H30 ・観光消費額 4,001億円</p> <p>・宿泊・飲食従事者一人あたりの付加価値額 223万円</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>国内外から、多くの観光客が本県を訪れ、誰もがその地域の魅力を満喫することで、観光客の来県頻度の増加や滞在期間の延伸などにつながり、観光消費額が増大するとともに、ホテル等の生産性が向上し、従業員一人あたりの付加価値額は、全国トップレベルになっている。</p> <p>R4 ・観光消費額 4,500億円</p> <p>・宿泊・飲食従事者一人あたりの付加価値額 260万円</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>裾野が広い観光産業の「稼ぐ力」「働く魅力」を高めるため、観光産業の生産性の向上、観光人材の育成などに取り組むとともに、他産業との連携強化による経済波及効果の拡大に取り組みます。</p> | |

観光企画課
観光プロモーション課
(国際観光交流課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 地域未来投資法に基づく地域経済牽引事業への支援 | ➔ | | | |
| ○ ビッグデータを活用した外国人観光客動態・消費動向調査 | ➔ | | | |
| ○ 調査結果を活用したプロモーション等 | ➔ | | | |
| ○ DMOによる観光事業者の収益力向上支援 | ➔ | | | |
| ○ 平日、閑散期における誘客促進 | ➔ | | | |
| ○ 県産品の消費拡大・PR | ➔ | | | |

5 観光振興を通じた県内経済活性化





(東京オリンピック・パラリンピックのレガシー活用)

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>本県は、世界遺産富士山をはじめとする景勝地や質の高い県産品など、魅力的な観光資源を有しており、平成30年の本県観光入込客数は、前年から17.2%増加の約3,769万人と国内外から多くの観光客が訪れている。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>国内外における本県認知度の向上により、更なる観光客の増加及び県産品の高付加価値化が実現している。</p> <p>R4 国内外において本県の観光資源や県産品の認知度が向上している。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を、やまなし変革の起爆剤とし、その後の持続的な発展につなげるため、観光資源、県産品など本県の魅力の積極的な情報発信や磨き上げに取り組み、大会時に東京周辺を訪れる国内、国外の観光客を本県に取り込むとともに、県産品の認知度向上を図っていきます。</p> | |


オリンピック・パラリンピック推進課

観光プロモーション課

(国際観光交流課/県有林課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-----------------------------------|--|-------|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 大会を契機とした本県の魅力発信 |  | | | |
| ○ 県内での事前合宿が多いフランスを対象としたファミトリップの実施 |  | | | |
| ○ 地域通訳案内士の活用の促進 |  | | | |
| ○ 選手村で使用された部材を活用した県産材PR |  | | | |
| | 準備 | 準備・活用 | 活用 | |


6 サイクル王国やまなしの実現

| (施策の目指す姿) | |
|---|--|
| <p><現在></p> <p>東京五輪自転車競技ロードレースが本県内で行われることから、自転車に対する関心が高まりつつあり、富士北麓地域においてはサイクルネット構想(H28.3)が策定され、自転車通行空間の整備によって、一定の効果を得ているが、県内全域で展開するには至っていない。</p> <p>H30 山梨県自転車活用推進計画の策定に着手</p> |  <p><将来></p> <p>「サイクル王国やまなし」が県民に浸透するとともに国内外にも認知され、多くのサイクリストや観光客などが来県し、ロードレースやサイクリングを楽しんでいるなど、誰もが安全で快適に自転車を活用し、観光やまちづくりなどに生かされている。</p> <p>R4 自転車活用推進計画に基づく具体的な取り組みが進み、富士北麓エリア以外の地域でも、モデルルートが設定され、受入環境や通行空間の整備が進んでいる。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>東京オリンピックの自転車競技ロードレースコース等を活用し、本県への誘客を促進し地域活性化につなげるとともに、自転車の安全で適正な利用等を促進し、「サイクル王国やまなし」を実現するため、自転車利用環境の整備や、観光資源を活用した魅力づくりとインターネット等を通じた情報発信、受入環境の形成、自転車を活用した健康増進やスポーツ振興、安全適正利用の促進等に取り組みます。</p> | |





(道路整備課／交通政策課
観光プロモーション課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 山梨県自転車活用推進計画の策定・推進 | 策定 | 推進 | | |
| ○ 自転車利用環境の整備 | 検討・整備 | 整備 | | |
| ○ 安全適正利用及び保険加入促進対策の実施 | 検討 | 実施 | | |
| ○ 「富士の国やまなしを全力で走る+」サイト等におけるPR | 実施 | | | |

7 南アルプス観光の促進

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>南アルプス地域は、標高日本第2位の北岳をはじめとする日本有数の山々を有しており、ユネスコエコパークに認定されるなど豊かな自然と固有の歴史・文化といった観光資源に恵まれているが、観光客数は富士北麓地域と比較して約 1/10 で、登山や道の駅の利用が主な観光目的となっており、多様な観光資源を生かしきれていない。</p> <p>H30 早川芦安連絡道路を整備するための工事用道路を施工中</p> |  |
| <p><将来></p> <p>ユネスコエコパークにおける核心地域、緩衝地域、移行地域のそれぞれの観光資源の活用について、国、県、市町村、民間事業者等が連携して取り組み、付加価値の高い観光地として幅広い層の誘客が図られている。</p> <p>R4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス観光活用の基本方針に基づき、各関係機関がグレードアップに取り組んでいる。 ・早川芦安連絡道路のトンネル工事に必要となる道路改良の完成 | |
| (施策の概要) | |
| <p>南アルプス観光のグレードアップを図るため、南アルプス観光活用検討委員会を設置し、南アルプスの環境保全を考慮した上で、基本方針の作成や環境整備、関係機関の取り組みについて検討を行うとともに、南アルプス地域へのアクセス、災害時の避難や救援、物資輸送等を支える交通基盤を計画的に整備します。</p> | |

(観光資源課／道路整備課／治山林道課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------|--|---|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 南アルプス観光活用検討委員会における検討 |  | | | |
| ○ 検討結果に基づいた事業等の実施 | 実施 |  | | |
| ○ 早川芦安連絡道路の整備 |  | | | |
| ○ 南アルプス林道の整備 |  | | | |

8 「ワイン県」宣言を活用した観光振興

| | |
|---|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>近年、世界的に評価が高まっている県産ワインは、「ワイン県」宣言により注目度が増している。</p> <p>H30 観光客一人あたりの平均消費単価 10,616 円</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>ワイン県としての認知度が高まることで、国内外から県産ワインを目的に本県を訪れる観光客が増加し、他の地域資源にもその効果が波及することで、観光産業の収益力向上が実現。</p> <p>R4 観光客一人あたりの平均消費単価 12,000 円</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>「ワイン県」宣言を契機に、本県への誘客及び県産ワインの高付加価値化を図るため、本県のワインの魅力を全国に向けて情報発信していきます。</p> | |

(観光プロモーション課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------|--|--|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 「ワイン県」宣言を契機にしたPR事業 | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 宣言 | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 実施 | | |

9 世界文化遺産富士山の普及啓発

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>富士山世界遺産センターを整備し、世界遺産富士山の顕著な普遍的価値を普及するため、各種事業を実施している。</p> <p>H30 世界遺産センター（北館+南館）入館者数 50万人/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>世界遺産センターを拠点とした様々な事業の実施により、世界遺産富士山への理解が進み、質の高い観光地としてのブランド化が実現している。</p> <p>R4 世界遺産センター（北館+南館）入館者数 71万人/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>富士山の顕著な普遍的価値の理解を促進するため、富士山世界遺産センターを中心に、各構成資産をつなぐ巡礼路の活用や「富士山の日」フェスタ、リバーズ！富士講プロジェクトなどの実施、キッズ・スタディ・プログラムの推進等に取り組みます。</p> | |

(世界遺産富士山課)

| 具体的な事業 | 工程表（年度別事業計画） | | | |
|------------------------------|--------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 富士山世界遺産センターの運営 | ➔ | | | |
| ○ 「富士山の日」フェスタの開催、街頭キャンペーンの実施 | ➔ | | | |
| ○ 富士山の顕著な普遍的価値の伝達 | ➔ | | | |

10 富士山の安全対策の実施

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>登山者や来訪者の安全確保を図るため、様々な安全対策を講じているが、外国人登山者や来訪者の更なる増加への対応、噴火等の突発的な自然災害への対応が十分ではない。</p> <p>H30 五合目インフォメーションセンターでの外国人等相談対応件数（開山期間中） 9,430件</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>多言語化への適切な対応により、外国人も含めた登山者や来訪者に対し、必要な情報発信を可能にするとともに、登山環境や避難環境の整備により、全ての登山者や来訪者の安全確保が実現している。</p> <p>R4 五合目インフォメーションセンターでの外国人等相談対応件数（開山期間中） H30 と同水準を維持</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>富士登山者や来訪者の安全確保を図るため、関係機関と連携した情報伝達の体系化を図るとともに、登山指導やパトロール、救護等の安全対策を実施します。</p> | |

（ 世界遺産富士山課／道路管理課 ）

| 具体的な事業 | 工程表（年度別事業計画） | | | |
|--|--------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 五合目インフォメーションセンターの設置運営、富士山登下山道の維持管理 | 実施 | | | |
| ○ 富士山登山者を対象にしたルール・マナーの事前指導等の実施 | 実施 | | | |
| ○ 登下山道標識の多言語表示や道標の管理 | 管理 | | | |
| ○ 噴火や落石などに備え市町村等が実施するヘルメットなど安全装備品等への整備支援 | 支援 | | | |

1.1 登山の安全の確保

| | |
|---|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>平成29年10月、山梨県登山の安全の確保に関する条例を制定し、安全な登山について周知・普及啓発に努めており、登山届の事前提出件数が増加しているが、遭難件数や死者数は高水準で推移しており、県外居住者、40代以上が大半を占めている。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>条例の周知、普及啓発により、安全な登山への意識向上が図られ、登山届が事前に提出されることにより、登山の安全の確保が図られるとともに、継続的な山岳遭難救助訓練により救助技能が向上している。</p> <p>R4 条例の周知、普及啓発により、安全な登山への意識が向上している。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>登山の安全の確保を図るため、条例の周知・普及啓発を進めるとともに、厳冬期（12月から翌3月）の間は富士山、八ヶ岳、南アルプスの山域の登山口で登山届の提出指導などを行います。</p> | |

(観光資源課／警：地域課)

| 具体的な事業 | 工程表（年度別事業計画） | | | |
|----------------|--------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 安全登山推進会議の開催 | | | | |
| ○ 厳冬期における登山口指導 | | | | |
| ○ 山岳遭難救助訓練の実施 | 強化 | 実施 | | |

1.2 伝統的観光地の再活性化

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>本県の観光入込客数は、インバウンド客の増加等により、富士・東部地域を中心に順調な伸びを示している。一方、国中地域には、停滞ぎみの観光地が点在し、地域偏差が生じており、本県を代表する伝統的観光地もその例外ではない。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>観光地の再活性化に向けて、地元自治体を主体とする協議会で検討した具体的な取り組み等が実施され、観光入込客数は順調な伸びを示し、最盛期の賑わいを取り戻している。</p> <p>R4 対象の観光地において、具体的な施策等の検討結果に基づき、各々の立場において取り組みが進められている。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>観光産業を県内産業の稼ぎの柱とすべく、観光入込客数や観光消費額の停滞に伸び悩む伝統的観光地の再活性化を図るため、地元自治体を主体に、観光事業者等の関係団体や、有識者等で構成する会議を設置・開催し、具体的な施策等を検討するとともに、当該検討結果に基づき、それぞれの立場において取り組みの支援を行います。</p> | |





(観光企画課／観光資源課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------|--|---|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 昇仙峡の再活性化の検討・支援 | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 検討 | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 支援 | | |
| ○ 他の主要観光地の再活性化の検討・支援 | | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> 検討・支援 | | |

1.3 森林の保健休養機能の活用

| | |
|---|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>森林の保健休養機能への期待が高まっているものの、地域と一体となった取り組みが十分に行われていない。</p> <p>H30 森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数 713 千人/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>森林公園等の再整備や多様な活動プログラムの提供などにより、森林が憩いや癒やし等の場として地域の活性化に寄与している。</p> <p>R4 森林公園、森林文化の森、清里の森の利用者数 787 千人/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>観光・レクリエーション利用を促進し地域の活性化を図るため、森林公園や森林文化の森などにおいて、地域の福祉・観光等、様々な分野と連携した森林利用プログラムの提供や、金川の森、清里の森の計画的な施設の更新・改修などにより、森林の保健休養機能の活用を促進します。</p> | |

(県有林課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 森林公園等の利活用 |  | | | |
| ○ クライン・ヴァルトの利用促進 |  | | | |
| ○ 金川の森の長寿命化 |  | | | |
| ○ 清里の森の再整備 |  | | | |

※ 森林の保健休養機能

森林浴やハイキングなどの森林レクリエーションをすることによって、安らぎを得たり、心身の緊張をほぐしたりする効果

1.4 地域資源を活用した農泊の推進

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>農泊ビジネスに意欲的に取り組もうとする地区が、地域資源の活用方法やビジネスプランづくりを模索している。</p> <p>H30 農泊ビジネスプランの策定地区数 5地区(累計)</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>インバウンドをはじめ、多くの来訪者が農泊を体験し、農山村地域の所得向上と雇用の増大が図られている。</p> <p>R3 農泊ビジネスプランの策定地区数 11地区(累計)</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>県内各地の農村地域の古民家や伝統食などを観光資源として活用した農泊を推進するため、ビジネスプランの策定等に対し支援します。</p> | |

(農村振興課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 農泊ビジネスプランの策定と取り組みへの支援 | ➔ | | | |
| ○ 農泊に取り組む団体のネットワーク化と情報交換会の開催 | ➔ | | | |


1.5 農業遺産の活用による農業振興

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>世界農業遺産の認定に向けて保全計画を策定するとともに、機運醸成のための啓発活動を行っている。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>世界農業遺産への認定により、地域での営農意欲の高まりや担い手の確保が図られるとともに、観光農園や農村景観を目的に地域を訪れる人が増加し、地域農業が活性化している。</p> <p>R4 峡東地域の果樹農業システムの保全に向け、農業者や地域住民など多くの人が保全に携わるようになり、より地域が活性化している。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>ぶどうやももなどの果樹農業を将来にわたって維持発展させ、景観の保全を図るため、峡東3市及び関係団体と連携し、果樹農業システムの保全に向けて取り組むとともに、地域活性化に向けて取り組みます。</p> | |







(農政総務課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------|---------------|---------|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 世界農業遺産の認定推進 | ➔ 申請 | ➔ 認定 | | |
| ○ 峡東地域における果樹農業システムの保全 | ➔ 支援 | | | |
| ○ 世界農業遺産による地域活性化に向けた活用 | ➔ 検討 | ➔ 活用 | | |

1.6 インフラの価値や魅力の情報発信

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>身近なインフラが持つ役割や必要性が十分に理解されていない。観光資源としても活用しきれていない。</p> <p>H30 インフラの価値や魅力の情報発信が十分でない。</p> |  |
| <p><将来></p> <p>民間事業者と協働でポータルサイトが運営され、情報発信の充実や民間旅行会社によるインフラツアーが実施されている。</p> <p>R4 ポータルサイト等によりインフラ施設が紹介され観光資源として活用されている。</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>インフラへの理解を深めるとともに新たな観光資源として県内外からの誘客や地域の活性化を促すため、インフラが持つ役割とその技術的、文化的な価値や魅力についてポータルサイトを開設し情報発信するとともに、現場見学会やインフラツアーを実施します。</p> | |

(景観づくり推進室)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-----------------|--|---|---|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ ポータルサイトの開設・運営 |  開設・運営 |  運営 | | |
| ○ 現場見学会の開催 |  開催 | | | |
| ○ インフラツアーの実施 |  検討 |  試行 |  実施 | |

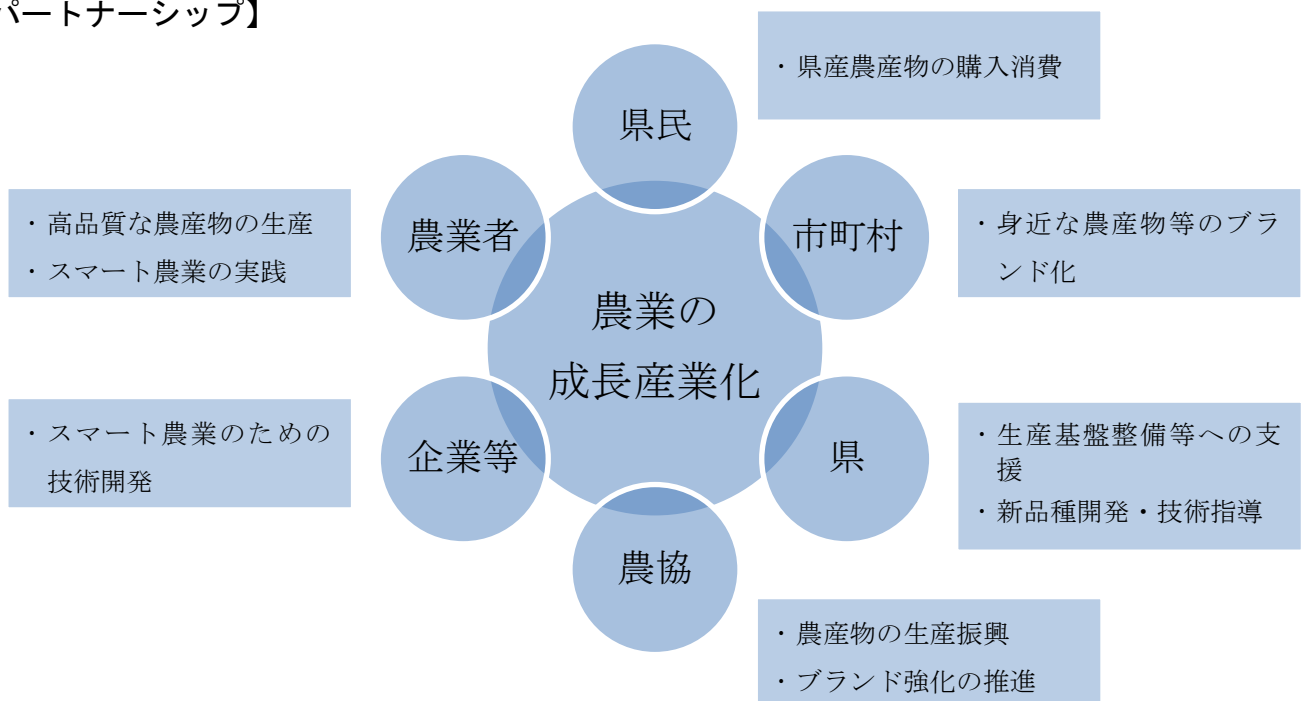
政策3 農業の成長産業化

【政策の基本的な考え方】

ぶどうやももなどの果実は、本県の農業生産額の過半数を占める基幹品目となっています。今後は、首都圏などの国内市場に加え、アジア諸国を中心とした海外市場において、一層のブランド強化と販路拡大を進め、高品質で付加価値の高い農産物の生産拡大を図ります。

さらに、県産の野菜や米、食肉、魚、花きなどのブランド強化を図るとともに、ICT等を活用したスマート農業²⁸の研究、普及を進めるなど、生産コストの低減や省力化を進め、収益性の向上を図ります。

【パートナーシップ】



【期待される政策効果】

高品質な県産農産物の供給が拡大するとともに、ブランド力が向上し、付加価値の高い農産物として販売されることにより、生産者の所得が向上しています。

²⁸ ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現を推進する新たな農業

1 ビッグデータを活用したスマート農業の推進

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>農業に関する各種データの蓄積、活用による省力化技術の研究、I o T等を活用した先進技術の導入を進めている。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>ビッグデータを活用した省力化技術、I o T等を活用した先進技術が開発・普及され、農業が活性化している。</p> <p>R4 AI等を活用し、ももの着果量を判断するシステムや病害虫の診断システムなど新たな技術が実用化され、生産の効率化や高品質化が進んでいる。</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>ビッグデータを活用した省力化技術やI o T等を活用した先進技術を普及するため、ビッグデータの蓄積やI o T等を活用した先進技術を導入、実証し、農業の収益力向上を図ります。</p> | |

(農業技術課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------------------|---------------|---------|------------|---------|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 気象要因と果樹の作柄の関係解明に向けた調査、果実データの集積 | ➔ 調査 | | ➔ 調査・検証 | |
| ○ AIを活用した野菜の病害虫診断技術の開発 | ➔ 開発 | | ➔ 開発・確立 | ➔ 普及 |
| ○ I o T等の先進技術の導入、実証 | ➔ 技術導入 | ➔ 実証 | | ➔ 普及 |


2 県産農産物等の輸出拡大

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>中国では本県の特産であるぶどう、ももの検疫条件が未設定であり、輸出ができない状況である。</p> <p>また、輸出の実績がある国や地域においては、市場における競争が激しいことから、やまなしブランドの一層の確立に取り組んでいる。</p> <p>H30 県産果実の輸出額 925 百万円</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>中国との間で検疫条件が設定され、輸出先国が拡大するとともに、戦略的・効果的な販売促進活動の結果、アジア諸国においてやまなしブランドの認知度が高まっている。</p> <p>R4 県産果実の輸出額 1,300 百万円</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>県産農産物等の輸出を拡大するため、検疫条件が未設定の中国へのぶどう輸出の実現に向けて取り組むとともに、輸出の促進に向けた新たな体制づくりと、アジア諸国への戦略的・効果的な販売促進活動を進めます。</p> | |



(販売・輸出支援室)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|--|--|---|---|--|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 中国との検疫条件の早期設定に向けて国等へ要望活動の実施 ○ 輸出解禁を見据えた現地調査やマーケティング調査と流通ルートの構築 ○ 輸出促進に向けた新たな体制づくりとプロモーション活動の強化 | <div style="background-color: blue; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 要望 | <div style="background-color: blue; width: 80%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> ルート構築 | <div style="background-color: blue; width: 60%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 体制づくり | <div style="background-color: blue; width: 40%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 活動強化 |
| | <div style="background-color: blue; width: 100%; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 調査・検討 | | | |

3 オリジナル品種の育成、高品質化の推進

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>本県農産物のブランド化や農業の生産性の向上につなげるため、オリジナル品種の育成や高品質・省力化等に向けた試験研究を進めている。</p> <p>H30・赤系ぶどう苗木供給本数 0本</p> <p>・試験研究成果情報数 10件/年</p> |  |
| <p><将来></p> <p>果樹等のオリジナル品種の産地化や、高品質化、省力化栽培技術の普及が進み、農業者の所得向上が図られている。</p> <p>R4・赤系ぶどう苗木供給本数 5,000本(累計)</p> <p>・試験研究成果情報数 10件/年</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>本県農産物のブランド化と産地化を進め、農業者の所得向上を図るため、本県農産物のオリジナル品種の育成、高品質・省力化に向けた試験研究や、販路拡大等を推進するとともに、高品質化や集出荷の効率化に向けた施設等の整備を進めます。</p> | |



(農業技術課/花き農水産課
果樹・6次産業振興課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------------------|--|------|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 果樹等のオリジナル品種の育成 |  | | | |
| ○ 赤系ぶどう (新品種) の産地化 | 育成 | | | |
| ○ ピラミッドアジサイ (オリジナル品種) の利用拡大の推進 | 登録出願 | 苗木供給 | | |
| ○ 農作物の高品質化、省力化栽培技術の開発・普及 | モデル展示 | 利用拡大 | | |
| ○ 果樹や野菜等の高品質化や集出荷の効率化に向けた施設等整備支援 |  | | | |
| | 開発・普及 | | | |
| | 支援 | | | |


4 農業競争力を強化するための基盤整備の推進

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>生産条件が不利な農地が多く点在し、生産性向上及び生産者の所得向上を図る産地の再編整備が途上にある。</p> <p>H30 果樹産地等における基盤整備面積 4,294ha</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>果樹産地の再編整備が進み、生産性向上及び生産者の所得向上が図られている。</p> <p>R4 果樹産地等における基盤整備面積 4,700ha</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>県産農産物の生産性向上及び生産者の所得向上を図るため、担い手のニーズに対応しつつ、果樹産地等におけるほ場や農道、用排水路などの農業生産基盤の整備を推進します。</p> | |







(耕地課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ ほ場、農道等の農業生産基盤整備 |  | | | |
| | 整備 | | | |
| ○ 樹園地等の農地の総合的な整備 |  | | | |
| | 整備 | | | |


5 県産農産物等の国内における「やまなしブランド」の強化と戦略的・効果的な販売促進

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>ぶどう、もも、すももは「やまなしブランド」として浸透しているが、全国的に十分とは言えない。</p> <p>また、「甲州牛」など甲州統一ブランドによる食肉も同様であり、「富士の介」などの水産物はブランド化の取り組みを始めたところである。</p> <p>H30・ももオリジナル品種「夢みずき」出荷量 22 t / 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうオリジナル品種「ブラックキング」出荷量 0 t / 年 ・「甲州牛」出荷頭数 389 頭 / 年 |  |
| <p><将来></p> <p>県産果実の「やまなしブランド」が全国にしっかり根付き、ぶどう、もも、すももの生産量日本一が堅持されるとともに、その他の農畜水産物もブランド化が図られている。</p> <p>R4・ももオリジナル品種「夢みずき」出荷量 250 t / 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうオリジナル品種「ブラックキング」出荷量 100 t / 年 ・「甲州牛」出荷頭数 500 頭 / 年 | |
| (施策の概要) | |
| <p>県産農産物等のブランドを全国に浸透させるため、これまで以上に県と農業関係団体が一体となり、民間ノウハウを活用したPRなど新たな取り組みや市場、小売店等における販売促進活動の強化を図ります。</p> | |

(販売・輸出支援室 / 果樹・6次産業振興課
畜産課 / 花き農水産課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|---------------------------------|--|---|---|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ SNSなどを活用した新たな取り組みによる情報発信等 |  | | | |
| ○ 市場、小売店等へ向けた戦略的・効果的な販売促進活動への支援 |  | | | |
| ○ 甲州牛等甲州統一ブランド食肉の生産拡大支援 |  | | | |
| ○ 「富士の介」の養殖技術の確立、販路拡大への支援 |  確立・出荷 |  本格出荷 |  販路拡大 | |

6 水田のフル活用の推進

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>主食用米の需要が減少傾向にあり、水田をフル活用するため、麦や大豆、野菜への転換が進んでいる。</p> <p>また、加工用米、飼料用米等の需要が増えている。</p> <p>H30 麦、大豆、加工・飼料用米等の作付面積 337ha</p> |  |
| <p><将来></p> <p>主食用米の需要の減少に応じた麦や大豆、野菜への転換が進むとともに、加工用米、飼料用米等の作付けが拡大し、水田が有効に活用されている。</p> <p>R4 麦、大豆、加工・飼料用米等の作付面積 381ha</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>水田をフル活用し、需要に応じた麦や大豆、野菜への転換、及び加工用米、飼料用米等の作付けを促進するため、生産拡大等に取り組む農業者を支援します。</p> | |

(花き農水産課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-----------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 水田フル活用ビジョンの策定・推進支援 | 策定 | 支援 | | |
| ○ 実需者と連携した加工用米等の生産拡大支援 | 支援 | | | |
| ○ 転作作物等の生産拡大等に必要な機械・施設整備の支援 | 支援 | | | |


7 農地集積の促進

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>担い手への農地の集積は、年々増加しているが、集積率は30%台にとどまっている。</p> <p>また、県内各地に利用されていない荒廃農地が存在している。</p> <p>H30・集積率 38.6%</p> <p>・荒廃農地解消累計面積 2,234ha</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>荒廃農地が再生され、新規就農者や企業など、中核となる担い手へ農地が集積・集約化されるなど、農地が適正利用されている。</p> <p>R4・集積率 44.5%</p> <p>・荒廃農地解消累計面積 2,870ha</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>担い手への農地の集積・集約化を進めるため、農地中間管理機構が行う事業（農地の借り受け・貸し付け、当該農地の利用条件の改善）や市町村等が行う荒廃農地の再生を支援するとともに、ほ場整備や農道等の基盤整備を推進します。</p> | |




(担い手・農地対策室
農村振興課／耕地課)

| 具体的な事業 | 工程表（年度別事業計画） | | | |
|--------------------------|--------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 農地中間管理機構の円滑な運営支援 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 農地集積協力者（農地の出し手）への支援 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 荒廃農地の解消への支援 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 農作業の省力化、効率化に向けた基盤整備の推進 | ➔ | | | |
| 整備 | | | | |
| ○ 基幹農道整備の推進 | ➔ | | | |
| 整備 | | | | |

8 農業の6次産業化の推進

| | | |
|--|---|---|
| (施策の目指す姿) | | |
| <p><現在></p> <p>本県は、豊富な農林水産物資源を保有し、農業生産が行われており、これらを活用した6次産業化への取り組みが進められているが、県内外における安定的な販路の確保等が不十分である。</p> <p>H30 6次産業化に新たに取り組む農業者等 92 経営体</p> |  | <p><将来></p> <p>県が設置するやまなし6次産業化サポートセンターの支援により、6次産業化への取り組みが拡大し、農産物の高付加価値化や販路開拓等が図られている。</p> <p>R4 6次産業化に新たに取り組む農業者等 132 経営体</p> |
| (施策の概要) | | |
| <p>農産物等の付加価値を高め、農家所得の向上を図るため、やまなし6次産業化サポートセンターを設置し、専門家による加工技術等のアドバイスや販路開拓・販路拡大支援などを通じて、農業者等が取り組む商品開発や販路開拓等を支援するとともに直売所等の販売拠点の整備を支援します。</p> | | |

果樹・6次産業振興課
(農村振興課／耕地課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 専門家派遣等による商品開発や販路開拓などの支援 |  | | | |
| ○ 6次産業化に取り組む人材を育成する研修会・インターンシップの実施 |  | | | |
| ○ 直売所、農産物加工施設等の整備への支援 |  | | | |


9 内水面漁業の振興

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>本県が開発した「富士の介」の養殖効率の向上や、河川・湖沼における水産資源の増大に向けた試験研究、普及指導及び種苗生産を行っている。</p> <p>H30「富士の介」出荷量 0t/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>「富士の介」の生産量が拡大し、県内外でのブランド化が図られ、養殖業者の所得が向上している。</p> <p>また、県内を訪れる釣り客が増加し、河川・湖沼の遊漁により地域が活性化している。</p> <p>R4 「富士の介」出荷量 40t/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>内水面漁業を振興し、養殖業者の所得向上を図るため、県が開発した「富士の介」のブランド化を進めます。</p> <p>また、観光と連携して河川や湖沼における釣りなどの遊漁の活性化を図るため、水産資源の保全や漁場環境の改善に向けた啓発活動などに取り組みます。</p> | |




(花き農水産課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|---------------------------|---------------|-----------|-----------|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 「富士の介」の養殖技術の確立、販路拡大への支援 | ➔ 確立・出荷 | ➔ 本格出荷 | ➔ 販路拡大 | |
| ○ 養殖用、放流用種苗の生産、供給 | ➔ 実施 | | | |
| ○ 水産資源の保全、漁場環境の改善に向けた啓発活動 | ➔ 実施 | | | |

10 家畜の防疫対策

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>CSF や高病原性鳥インフルエンザ等の重大な家畜伝染病の予防対策と発生した時に円滑かつ迅速な対応ができるよう体制整備を進めている。</p> <p>H30・モニタリング検査数 116件/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防疫演習 4回/年 ・立入検査・指導 2回/年 |  |
| <p><将来></p> <p>疾病防止のための各種モニタリング検査や飼養衛生管理基準の遵守指導の継続実施により、予防対策が徹底され、また、CSF 等が発生した時に、円滑かつ迅速な対応が可能な体制が整備されている。</p> <p>R4 ・モニタリング検査数 116件/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防疫演習 4回/年 ・立入検査・指導 2回/年 | |
| (施策の概要) | |
| <p>CSF や高病原性鳥インフルエンザ等の重大な家畜伝染病が発生した時に円滑かつ迅速な対応を行うため、危機管理体制を構築し、疾病対策を推進します。</p> | |

(畜産課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|---------------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 危機管理体制の構築・各種モニタリング検査の実施 |  実施 | | | |
| ○ 防疫演習の実施・初動体制の強化 |  実施 | | | |
| ○ 飼養衛生管理基準の遵守指導 |  指導 | | | |

※ CSF

Classical Swine Fever (クラシカル スワイン フィーバー) の頭文字をとった略称で、直訳は「古典的な豚の熱病」

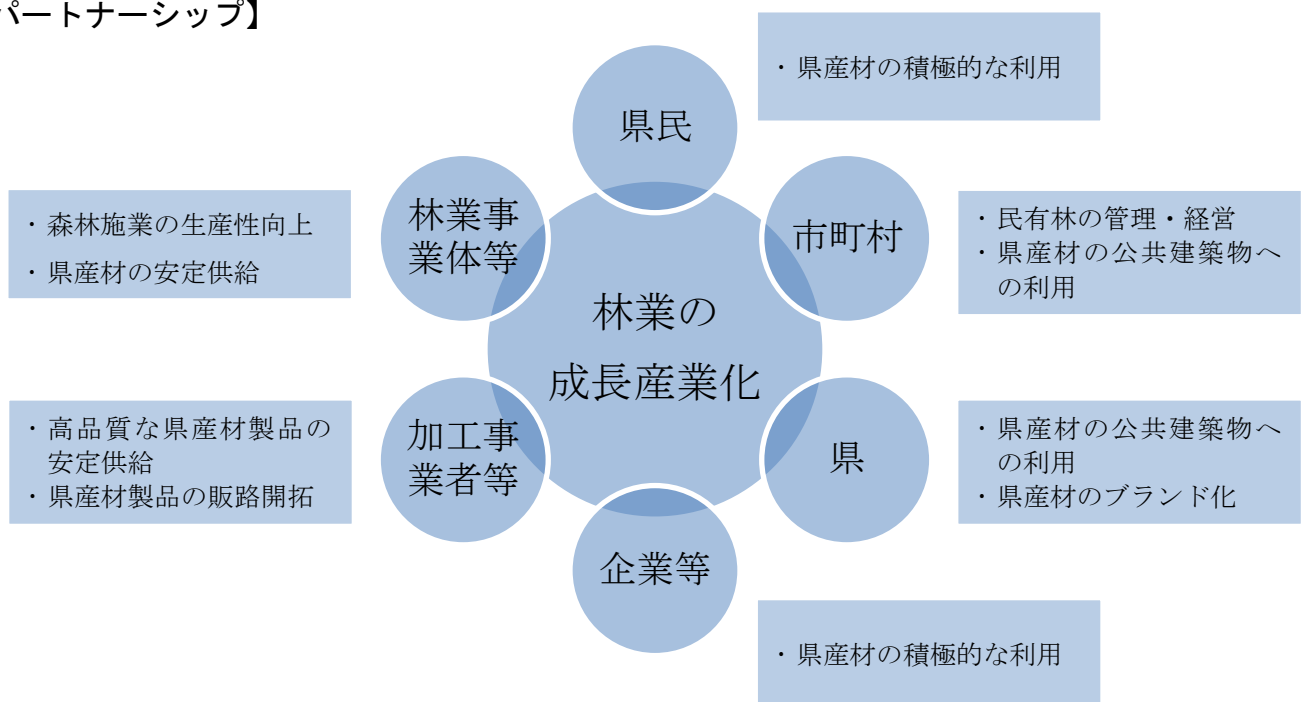
政策4 林業の成長産業化

【政策の基本的な考え方】

本県の人工林は、一般的な主伐期である50年生以上の森林が6割を超えているなど、本格的な伐採時期を迎えていることから、この資源を活用した林業の成長産業化を進めていく必要があります。

このため、森林施業の生産性向上や、木材加工流通施設整備への支援などによる品質の高い木材製品の安定供給とともに、東京圏や海外などへの新たな販路開拓、公共建築物等への積極的な利用による需要拡大を進めるほか、川上側の林業と、川中・川下側の木材関連産業が連携したサプライチェーンの強化を図るなど、「伐って、使って、植える」という森林資源の循環利用に向けた取り組みを推進します。

【パートナーシップ】



【期待される政策効果】

豊かな人工林資源の循環利用により、林業及び木材産業が成長産業化し、新たな雇用の創出や、林業就業者の所得向上など地域経済全体が活性化しています。

1 森林の多面的機能の持続的発揮を図る取り組みの推進

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>森林資源が充実してきているものの、林業の収益性が低いことなどから、多面的機能が十分発揮されていない森林も存在する。</p> <p>H30 木材生産量 201 千m³/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>林業の成長産業化が図られ、森林の多面的機能が発揮されている。</p> <p>R4 木材生産量 272 千m³/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>本格的な利用期を迎えた人工林資源の循環利用による森林の多面的機能の持続的発揮を図るため、森林・林業・木材産業施策の基本方針となる新たな計画を策定し、計画に基づく施策を総合的に推進します。</p> | |

(森林環境総務課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-----------------------|---------------|-------|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 新たな計画の策定・推進 | ➔ | ➔ | | |
| | 策定 | 施策実施 | | |
| ○ 山梨県森林審議会の意見聴取、点検・評価 | ➔ | ➔ | | |
| | 意見聴取 | 点検・評価 | | |
| ○ 森林・林業に関する試験・研究 | ➔ | | | |
| | 実施 | | | |


2 県産材供給体制の強化

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>県産材の約8割がチップ用途に使用され、価格の高い製材用途での利用は約1割にとどまっている。</p> <p>H30 製材用途の木材生産量 24 千m³/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>県産材の供給体制が整い、品質の高い県産材製品が低コストで安定的に供給されている。</p> <p>R4 製材用途の木材生産量 32 千m³/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>森林施業における伐採と造林の一貫作業システムや ICT 等の先端技術を活用したスマート林業の導入などによる生産性の向上や、再造林に必要な苗木の生産力強化などによる森林整備の推進、木材加工流通施設の充実、林業・木材産業関連事業者によるサプライチェーンの構築などにより、県産材の供給体制の強化を図ります。</p> | |







(森林整備課/林業振興課/県有林課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|---------------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 苗木生産力の強化 | ➔ | | | |
| | 支援 | | | |
| ○ 主伐後の再造林や間伐等による森林の整備 | ➔ | | | |
| | 実施・支援 | | | |
| ○ 高性能林業機械の導入などによる森林施業の生産性の向上支援 | ➔ | | | |
| | 支援 | | | |
| ○ 製材・加工施設の整備に対する支援 | ➔ | | | |
| | 支援 | | | |
| ○ 林業・木材産業関連事業者によるサプライチェーン強化への支援 | ➔ | | | |
| | 支援 | | | |

3 県産材需要拡大の推進

| | | |
|---|---|---|
| (施策の目指す姿) | | |
| <p><現在></p> <p>本県の人工林の多くが本格的な伐採時期を迎え木材として利用可能な資源量は充実しているものの、木材利用量は、低位にとどまっている。</p> <p>H30 木材生産量 201 千m³/年</p> |  | <p><将来></p> <p>県産材が国内外で利用され、森林資源の循環利用が図られている。</p> <p>R4 木材生産量 272 千m³/年</p> |
| (施策の概要) | | |
| <p>「山梨県県産木材利用促進条例」に基づく基本方針を策定し、公共建築物の原則木造・木質化や、住宅、民間施設等への県産材の利用を促進するとともに、東京圏や海外において、新たな販路の拡大を図ることなどにより、県産材の需要拡大を推進します。</p> | | |

(林業振興課／県有林課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-----------------------|--|---|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 県産材の利用促進のための基本方針の策定 |  策定 | | | |
| ○ 公共建築物等の木造・木質化の促進 |  実施 | | | |
| ○ 東京圏への販路開拓 |  支援 | | | |
| ○ 海外輸出の促進 |  検討 |  支援 | | |
| ○ 県産 FSC 認証材のブランド化の促進 |  実施 | | | |

4 森林施業の低コスト化を図る林内路網整備の推進

| | |
|---|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>造林、保育、素材生産等の森林施業を効率的に実施するための林道や森林作業道等の整備が十分進んでいない。</p> <p>H30 林内路網の整備延長 4,598km (累計)</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>林道や森林作業道等を活用した効率的な森林施業が行われている。</p> <p>R4 林内路網の整備延長 4,778km (累計)</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>木材の搬出や森林施業を効率的に行うための基盤となる、林道や森林作業道等の林内路網の計画的な整備を推進します。</p> | |

(治山林道課／森林整備課／県有林課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 林内路網整備計画の策定 | 策定 | | | |
| ○ 木材を運搬するための林道の整備 | 実施 | | | |
| ○ 効率的な森林施業を行うための作業道の整備 | 実施 | | | |

5 特用林産物の産地化の推進

| | |
|--|--|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>山村地域の収入源となる特用林産物の生産量が減少している。</p> <p>H30 クロアワビタケの生産量 0.32t/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>山梨の気候、風土に適した新たな特用林産物が県の特産品の一つとなり、生産者の所得が向上している。</p> <p>R4 クロアワビタケの生産量 4.00t/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>県が商標登録した「山梨夏っ子きのこ（クロアワビタケ）」や「kai 大黃（ダイオウ）」など山梨オリジナルの特用林産物新品種の栽培技術を確立するとともに、生産者の育成、販路の拡大に取り組み、山村地域の活性化に向けた特用林産物の産地化を推進します。</p> | |

(林業振興課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ きのこ新品種の栽培技術の確立 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 薬用植物新品種の栽培技術の確立 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 特用林産物の販路拡大 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 特用林産物生産者の育成 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |

6 木質バイオマスの利活用の推進

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>間伐や主伐により生じる曲がり材や林地残材などの木質バイオマス資源の利用が進んでいない。</p> <p>H30 木質バイオマス燃料用木材供給量 38 千m³/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>木質バイオマス発電所や木質ボイラーの燃料として、木質バイオマス資源が有効に活用されている。</p> <p>R4 木質バイオマス燃料用木材供給量 109 千m³/年</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>木質バイオマスの利活用を推進するため、木質ボイラーやペレットストーブなどの設備や木材チップ加工施設等の整備を支援するとともに、木質バイオマスの安定供給体制の整備に取り組みます。</p> | |

(林業振興課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 木質バイオマス利用施設等の整備 | ➔ | | | |
| | 支援 | | | |
| ○ 未利用間伐材等の供給体制の整備 | ➔ | | | |
| | 支援 | | | |

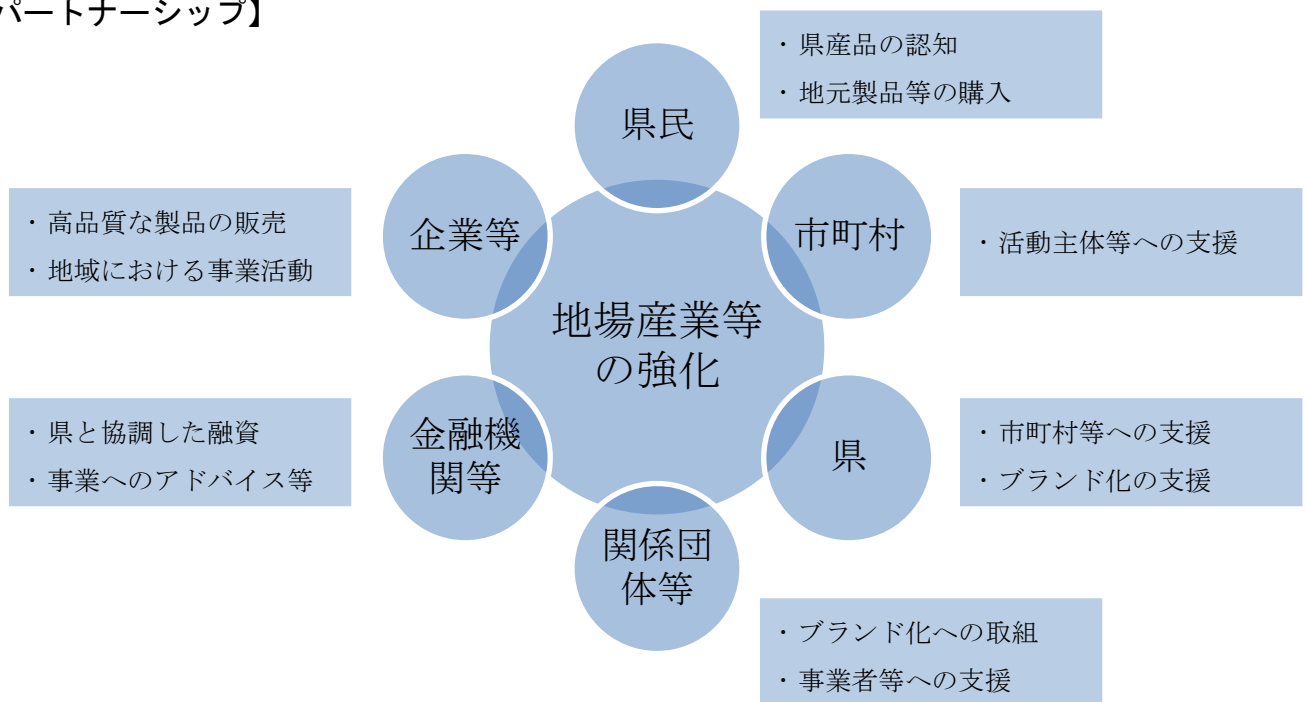
政策5 地場産業や経済を循環させる産業の強化

【政策の基本的な考え方】

ワインなどのブランドは国際的に認知されてきており、織物などについてもブランド化が進みつつあります。今後は、高い品質や高度な技術を生かし、海外を含め、さらにブランド化を進め、利益率の高い産業へと強化していく必要があります。

また、様々な産業が県外、さらには国外から獲得した新たな需要による経済効果を地元経済に波及させ、地域経済全体を活性化するため、商業やサービス業など、地域に密着した産業の強化を図ります。

【パートナーシップ】



【期待される政策効果】

地場産業のブランド化が進み、付加価値の高い製品として国内外における認知度が高まることで、事業者の売り上げが向上しています。また、地域に密着した産業も強化され、地域の経済循環が進むことで、地域経済全体が活性化しています。

1 企業支援の充実

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>県内企業の大多数を占める中小企業・小規模企業は、地域における雇用の創出などを通じて、県内経済の発展に貢献しているが、少子高齢化の進行や人口減少、国内外の企業との競争の激化などにより、厳しい経営環境に置かれている。</p> <p>H30 経営計画・経営革新計画を作成した企業 298社/年</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>意欲ある中小企業・小規模企業が自らの努力と創意工夫により、社会経済状況の変化に対応し、新しい価値の創出や生産性の向上を図っている。</p> <p>R4 経営計画・経営革新計画を作成した企業 1,500社 (R1-4累計)</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>本県経済の持続的発展と活性化を図るため、中小企業・小規模企業が行う新技術や新製品の研究開発、経営環境の改善に向けた事業転換や販路開拓などの取り組み、更には、生産性向上のための先進技術の活用、事業承継の取り組み等を支援します。</p> | |

産業政策課／商業振興金融課

新事業・経営革新支援課

(企業立地・支援課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-----------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 「山梨県中小企業・小規模企業振興計画」の改定・実施 | 実施・見直し | 実施 | | |
| ○ 商工業振興資金による金融支援 | 支援 | | | |
| ○ 経営計画及び経営革新計画に基づく取り組みへの支援 | 支援 | | | |
| ○ 研究開発に関する取り組みへの支援 | 支援 | | | |
| ○ I o T等の導入及び活用を支援 | 支援 | | | |
| ○ 事業承継の促進 | 支援 | | | |

※ 経営計画・経営革新計画

「経営計画」とは、小規模事業者が、商工会及び商工会議所の支援を受け、自社や自社の提供する商品・サービスの強み、経営方針・目標等をまとめた計画をいう。

「経営革新計画」とは、中小企業者等が、新事業活動を行うことにより、その経営の相当程度の向上を図るための経営革新に関する計画であり、中小企業等経営強化法に基づき、知事の承認を受けたものをいう。


2 産地のブランド形成の推進

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>県内地場産業の認知度が徐々に高まりつつあり、販路も一部海外に広がっている。</p> <p>H30 県事業により海外への販路開拓に取り組んでいる事業者数 99社(H27-30累計)</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>産地のブランド力が高まり、世界的な知名度が向上したことで、国内はもとより、海外販路の開拓が進み、市場を獲得している。</p> <p>R4 県事業により海外への販路開拓に取り組んでいる事業者数 110社(R1-4累計)</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>地場産業のブランド力を向上させるため、山梨のワインや日本酒、ジュエリー、織物等の認知度向上や付加価値を高める取り組みの推進、販路拡大などを図るとともに、伝統工芸品の需要開拓や後継者育成を行います。</p> | |






(地域産業振興課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------------|---------------|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 産地のイメージアップ、販路拡大への支援 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |
| ○ 伝統工芸品の需要開拓や後継者育成等への支援 | ➔ | | | |
| 支援 | | | | |


3 ワイン産業と醸造用ぶどう生産の振興

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>山梨ワインの国際的な評価が高まる中、需要に見合う供給量が確保できていない。</p> <p>また、日本ワインの需要が拡大するなか、原料ぶどうの生産量が十分に確保されていない。</p> <p>H29・醸造用甲州供給量 3,495 t / 年</p> <p>・甲州ワイン生産量 2,516kL / 年</p> |  |
| <p><将来></p> <p>醸造用ぶどうの増産によりワイン原料が十分確保され、また品質も高く安定取引されており、より高品質な甲州ワインが十分に供給されている。</p> <p>R4・醸造用甲州供給量 3,900 t / 年</p> <p>・甲州ワイン生産量 2,800kL / 年</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>山梨ワインの更なる高品質化に向け、ワイン醸造技術の向上などに取り組むとともに、優良系統の苗木の供給等による「甲州」の生産拡大や、本県に適した欧州系品種の選抜・ウイルスフリー母樹の育成と選抜による高品質化など、醸造用ぶどうの生産振興を図ります。</p> | |






地域産業振興課
 企業立地・支援課
 果樹・6次産業振興課
 (担い手・農地対策室)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|------------------|--|----|---|---|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ ワインの生産技術の強化支援 |  | | | |
| ○ 「甲州」の生産拡大 |  | | |  生産拡大 |
| ○ 本県に適した欧州系品種の選抜 |  | |  母樹育成 | |


4 日本酒産業の振興と原材料用酒米の産地確立

| | | |
|---|---|---|
| (施策の目指す姿) | | |
| <p><現在></p> <p>高品質な日本酒への需要が高まっている中、本県に適合する酒米品種の試験研究を行っているが、本県に導入されている酒米品種が少ない。</p> <p>H30 産業技術センターにおける醸造技術向上のための依頼試験・設備利用件数 87件/年</p> |  | <p><将来></p> <p>本県に適合する酒米品種の生産拡大と酒造メーカーの醸造技術の向上により、更に品質の高い日本酒が醸造されている。</p> <p>R4・産業技術センターにおける醸造技術向上のための依頼試験・設備利用累計件数 390件 (R1-4累計)</p> <p>・酒造メーカー等と検討し、本県に適合する新たな品種が選定されている。</p> |
| (施策の概要) | | |
| <p>日本一の名水の地山梨で造られる日本酒の更なる高品質化に向け、日本酒醸造技術の向上などに取り組むとともに、本県に適合する酒米品種を選定し、原料となる酒米の生産拡大を促進します。</p> | | |





(企業立地・支援課/花き農水産課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------------|---|----|---|---|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 日本酒の生産技術の強化支援 |  | | | |
| ○ 酒米の生産拡大等に必要機械・施設整備の支援 |  | | | |
| ○ 本県に適合する酒米の品種検討・選定 |  栽培・検討 | |  試験醸造 |  選定 |

5 地域商業活性化への支援

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>郊外への大型店の出店やインターネット通販の拡大等により、地域の商業を取り巻く環境は厳しさを増している。</p> <p>H30 県の支援による新規出店者数 145件 (H27-30 累計)</p> |  |
| <p><将来></p> <p>商店街などにおける既存店舗の魅力づくりや、新規出店等により、地域商業が活性化し、住民の身近な買い物場所として人々の生活を支え、地域に賑わいを創出している。</p> <p>R4 県の支援による新規出店者数 160件 (R1-4 累計)</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>商店街をはじめとした地域商業の活性化を推進するため、商店街等が実施するハード整備やソフト事業、起業による新規出店を支援するとともに、地域商業活性化を担う人材を育成します。</p> | |

(商業振興金融課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 商店街等が実施するハード整備やソフト事業への支援 |  | | | |
| ○ 起業による新規出店への支援 |  | | | |
| ○ 地域商業活性化を担う人材の育成 |  | | | |
| ○ 買い物弱者対策への支援 |  | | | |

6 郷土食等による地域の活性化・観光振興

| | |
|---|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>近年の少子高齢化や地域社会とのかかわりの希薄化、また食のグローバル化が進む中で、地域に伝わる郷土食等の継承が難しくなっている。</p> <p>H30 食の伝承マイスターの認証件数 5件</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>郷土食等に光りがあたり「食」による地域の活性化や観光振興につながっている。</p> <p>R2 食の伝承マイスターの認証件数 10件（累計）</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>食による地域の活性化や観光振興を図るため、本県で食育推進全国大会を開催するとともに、「やまなしの食」育み会議の開催、食の伝承マイスター認証等により、食による地域の魅力を再発見する取り組みを進めます。</p> | |

(消費生活安全課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|---------------------|--|----|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 食育推進全国大会の開催 | <div style="background-color: blue; width: 100px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 開催 | | | |
| ○ 食による地域の魅力再発見の取り組み | <div style="background-color: blue; width: 200px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> 実施 | | | |


7 豊かな食材を活用した食のブランドの確立

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>近年、本県への観光客は増加する半面、観光消費額は減少傾向にある。</p> | <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue;">➔</div> <p><将来></p> <p>豊かな食材を活用した食のブランドが確立し、本県の「食」を楽しむため、国内外からの観光客の増加及び観光産業の収益力向上が実現している。</p> <p>R4 本事業で創造した料理スタイルに賛同し、新たな取り組みを行う県内飲食関係団体数 2 団体</p> |
| (施策の概要) | |
| <p>食の魅力による誘客や観光産業の収益力向上を図るため、本県の豊かな食材を活用した新たな料理スタイルの創造や飲食関係団体の支援などを行います。</p> | |





(観光プロモーション課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|-------------------------------|---|---|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 本県の食材を活用した食のブランドの確立に向けた取り組み | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> <p>検討</p> | <div style="text-align: center; font-size: 1.5em; color: blue;">➔</div> <p>支援</p> | | |

8 史跡甲府城跡の適切な継承と中心市街地の活性化

| | |
|--|---|
| (施策の目指す姿) | |
| <p><現在></p> <p>空洞化の進んでいる中心市街地について、これまでの駅前広場や平和通り等の一体的な整備により、依然として空き店舗が目立つものの、歩行者が増加するなど、着実に効果が現れている。</p> <p>一方、甲府市の中心市街地に位置する史跡甲府城跡の保存、活用に関する基本的な指針がなく、史跡の魅力を十分に活かせていない。</p> <p>H30 甲府城周辺地域活性化実施計画を策定し、整備に着手</p> |  |
| <p><将来></p> <p>基本的な指針に基づき史跡甲府城跡の適切な保存と関連施設の整備等による魅力向上が図られるとともに、公共施設跡地等を活用し、県と甲府市の共同で甲府城周辺整備が行われ、新たな人の流れが生まれている。</p> <p>R4 史跡甲府城跡保存活用計画等に基づいて、甲府城跡の保存と活用、周辺整備を推進している。</p> | |
| (施策の概要) | |
| <p>郷土への誇りや愛着を深め、史跡甲府城跡を次代へ着実に継承しつつ、更なる活用を推進するとともに、中心市街地の賑わいの創出や活性化を図るため、甲府城周辺整備を進めます。</p> | |

(学術文化財課／都市計画課
商業振興金融課)

| 具体的な事業 | 工程表 (年度別事業計画) | | | |
|----------------------------------|---|--|----|----|
| | R1 | R2 | R3 | R4 |
| ○ 甲府城跡保存活用計画の策定 |  検討 |  策定 | | |
| ○ 甲府城跡保存活用計画に基づく整備等 | |  検討・実施 | | |
| ○ 中心市街地活性化に向けた甲府城周辺整備とまちづくり活動の支援 |  整備・支援 | | | |